

# 社長を語る

## 朝日建設(富山市) 林和夫社長(64)

きっかけは、母絹子さんの介護体験から感じた疑問だった。「母が通うショートステイ施設を訪ねたら、お年寄りの体を洗う機械浴装置が気になつてね。まるでまな板の上のこいみいだつた」

ちよつど資材置き場に使う土地が余っていた。会社は無借金のおうえ、受注が減っているから従業員にも余裕があつた。「それなら、自分で理想

# 介護参入理想目指す

の介護施設をつくつてやるつ」。

当時、北陸では戦に踏み出した。ほとんど例がなかった建

二〇〇二年六月、介護

デイサービスを提供する

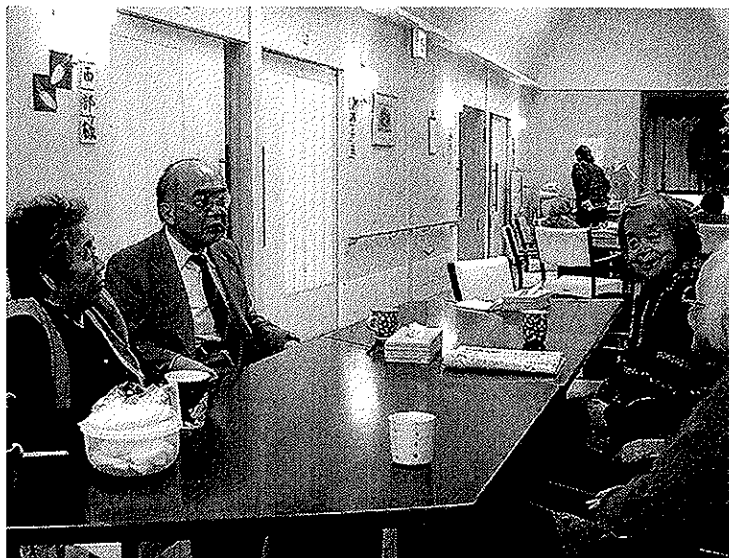
いだ。公共事業を無駄と

事業の子会社「朝日ケア」を負った老舗を、三代目と

を設立。〇三年三月にはして祖父と父から引き継

ないかと考えていく」

(大島康介)



あさひホームでお年寄りと談笑する  
林社長(左から2人目) 富山市で

「あさひホーム」を富山切り捨て政治の流れに市に完成させた。建設費 苦しむ建設業界にあっては二億三千万円。こだわ 高齢者向け住宅リフォー

った風呂は、香りの豊かなヒノキの浴槽にした。

「建設も介護も、人の分野など新しい領域に積極生活基盤をつくる点は同 極的に飛び込んできた。

じ。利用者に入らなくて 社員に繰り返し尋ねるもらえる場 shouldn't ことある。仕事を通じ

〇六年七月には二軒目の て誰かの役に立つたか

「あさひホーム吉作」を「働くといいのは『端

開業。三千八百万円の赤 の人を楽にする』という

字でスタートした事業 『端業』から来ている。

は、〇九年には一千万円 いろんな仕事でも、わが社

の利益を出すところまで が存在する意味は人の役

こぎ着けた。 に立つこと」が持論だ。

目指すのは「朝日のよ 昨年九月には女性社員

うにさわやかな会社」だ。 二人が資格を取得し、福

創業七十一年。富山空港 社用具のレンタル事業に

滑走路の舗装工事も請け 乗り出した。高齢者宅を

訪問する機会を増やせば、介護事業に相乗効果が見込める。「変化してきたからこれまで生き残ることができた。これからも何か変わることは